



蕨市長 頼高 英雄氏

市長のメッセージ

蕨市は、日本一小さく、人口密度は日本一高い市ですが、古くは中山道の宿場町や機織りのまちとして栄え、成人式発祥の地としても知られるなど歴史と文化、コミュニティが豊かで、同時に、都心から近く、身近に公共施設が充実しているなど、利便性の高さも併せもつ日本一のコンパクトシティです。

子育て支援や教育に力を入れる中で、昨年、ある不動産会社の調査で「埼玉でカップルに人気の駅」で蕨駅が2位となりましたが、健康づくりや防災都市づくり、更には、蕨の玄関口にふさわしい駅前再開発の推進など、市民との協働で、住み心地ナンバー1のまちを目指しています。

はじめに

蕨市は東京都心から約20km、埼玉県南部に位置し、北はさいたま市、北から東にかけては川口市、南から西にかけては戸田市に接している。5.11km²と市として日本一小さな面積に、75,000人以上が暮らす、全国で人口密度が最も高い市である。

市内には、JR京浜東北線蕨駅があるほか、西川口駅やJR埼京線北戸田駅、戸田駅、戸田公園駅も身近に利用できる。道路では、かつての中山道が国道17号として市内を縦貫しているほか、県道35号などが市内を走っている。また、東京外環自動車道が市の北に位置し、高速道路へのアクセスも容易で、交通利便性は高い。

古くから中山道の宿場町として栄え、蕨本陣跡（表紙写真）をはじめ、旧家や蔵など、今も当時の面影を残す歴史的なまち並みが見られる。江戸時代末期からは機織物の町として栄え、戦後は首都圏における住宅都市として発展し、現在に至っている。

小さな面積の中に多くの人が集まる蕨市は、住民どうしの交流が深く、各地域におけるコミュニティ活動や生涯学習活動などが盛んに行われている。

歴史にちなんで、「中仙道武州蕨宿宿場まつり」や「わらび機まつり」などは多くの人で賑わう。近年ではさまざまな音楽を市内のホールや広場などで、身近に楽しめるように始めた、音楽によるまちづくり事業「わら音」も活況であり、様々な行事が活発に行われているまちとして知られている。

＊わらび機まつりと双子織

今年8月5～7日に「わらび機まつり」が3年ぶりに開催された。蕨は江戸時代末期から機織りのまちとして栄えた。塚越村の高橋新五郎が1826年七夕の夜に関東大権現（徳川家康）の夢のお告げで機屋を始め、考案した青縞が江戸で評判となり、塚越村を中心に織物業が盛んとなった。その後、2本の洋糸を絡ませて布を織る「二タ子織」が考案され、蕨の織物業は飛躍的に発展した。明治に入ると、「二タ子織」に改良を加え規格化した「双子織」が素朴な風合いとつややかな質感で評判を呼び、蕨は綿織物の一大生産地帯となった。

新五郎はその功績をたたえられ、妻いせとともに「機神様」として、塚越稲荷社境内にある「機神社」に祀られている。「機神社」にお参りする行事が本来の「機まつり」であるが、1951年にかつて機織りのまちとして栄えた歴史の継承と産業の発展を願い、



よみがえった双子織

蕨市概要

人口(2022年10月1日現在)	75,324人
世帯数(同上)	40,356世帯
平均年齢(2022年1月1日現在)	45.6歳
面積	5.11km ²
製造業事業所数(工業統計)	52所
製造品出荷額等(同上)	933.0億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	470店
商品販売額(同上)	1,003.5億円
公共下水道普及率	96.4%
舗装率	95.1%

資料:「令和3年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- JR京浜東北線 蕨駅
- 東京外環自動車道 外環浦和ICから市役所まで約2km

第1回「わらび機まつり」が開催され、今年第70回目を迎えた。今年は規模や期間を縮小して行われたが、華やかな七夕飾りがまちを彩り市民参加のステージが祭を盛り上げた。

なお、双子織は1960年代前半に生産が途絶えていたが、2000年代はじめに地元民の熱意でよみがえった。蕨商工会議所では、「双子織みらいプロジェクト」を立ち上げ、双子織の普及を推し進めている。

※ 地域の宝 わらびりんご

4月に市内各地に白い花が咲き、6月に市民による収穫がはじまるわらびりんご。日本一早く実がなることで知られている。わらびりんごは、市内の農家、故・吉澤正一さんが約20年がかりで研究・開発した極早生種。「りんごのない季節に病人や子どもに新鮮なりんごを」と研究を続け、1981年、市の名前をつけた「わらび」が新種登録された。

2009年に錦町コミュニティ委員会が中心となり、わらびりんごを広める取り組みが始まった。それ以来、「わらびりんごの会」を中心に普及活動が行われ、今では、公園や学校などで収穫されている。また、地元農家が商品開発に取り組んだ。わらびりんごは小ぶりで酸味が強いことから、加工用に向いており、収穫されたりんごはサイダーやシャーベットとして商品化されている。中でも「わらびりんごサイダー」は人気で、市内の酒屋やお祭りで数量限定販売されている。

※ 蕨市が舞台の女子サッカーアニメ

2021年4月から6月までテレビ放映された「さよなら私のクラマー」は蕨市が舞台の女子サッカーアニメ。埼玉県立蕨青南高校(アニメ上の高校)女子サッカー部「ワラビーズ」は弱小チーム。ここでの個性的な選手たちの活躍や成長が描かれる。

蕨市は「さよなら私のクラマー」の聖地として、アニメツーリズム協会から「訪れてみたい日本のアニメ聖地88(2022年版)」に選定された。市民体育館にミニギャラリーが設置され、認定時に贈呈された「アニメ聖地認定プレート」と「公式ご朱印」が展示されている。また、蕨駅西口けやき広場には、キャラクターののぼりが立ち、訪れたファンを出迎えている。聖地巡礼ウォーキング大会が開催され、わらびりんごサイダー「さよなら私のクラマー」限定ラベルが発売されるなど、地域ぐるみでアニメと連携した取り組みを推進している。

(吉嶺暢嗣)



わらびりんごサイダー「さよなら私のクラマー」限定ラベル